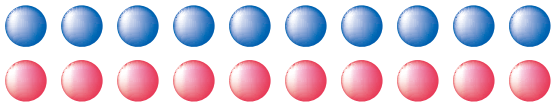
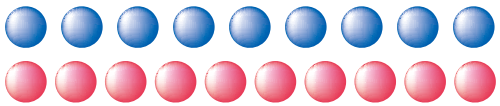
保存の概念 ―数の保存の実験　p.20



青と赤の数について尋ねる → 同じ数だと答える



見かけの長さを変えると，保存の概念を獲得していない子どもは，青のほうが多いと答える

解説 ハイトの道徳基盤理論　p.21

コールバーグのモデル (p.21) は，道徳的判断を，複雑な認知過程としてとらえているが，近年の道徳心理学では，道徳的判断を直観にもとづくものととらえる考え方も提出されている。

アメリカの心理学者ハイト（1963 ～）が提唱している道徳基盤理論によると，道徳的に容認できない行動を見たとき，私たちは嫌悪（けんお）感や憤（いきどお）りなどの感情を経験するとともに，行動の善し悪しについて，そのような感情と整合するように，直感的に判断する。

また，これらの感情が生起する心のしくみは，人間が集団生活に適応していく進化の過程で獲得されてきたと考えている。集団生活の維持に対して重要な役割を果たす，道徳的な価値が脅かされたとき，私たちは，複雑な認知過程を経ることなく，すばやく善悪の判断を行ったり，他者を非難する気もちを経験するのである。私たちが重要視する道徳的な価値（道徳基盤）としては，保護・加害，公平・欺瞞（ぎまん），忠誠・背信（はいしん），権威・転覆（てんぷく），神聖・堕落などが挙げられている。